

令和4年7月30日(土)

# もりおか史跡・遺跡めぐり in 盛岡城跡



三ノ丸北西部北面石垣全景

盛岡市遺跡の学び館

## 盛岡城とは

盛岡城は、盛岡藩主の南部信直と、その子の利直が、慶長2年(1597)頃から寛永10年(1633)の間、約40年もの歳月をかけて築いた南部氏の居城です。

城は旧北上川と中津川の合流点の丘陵に位置する平山城で、両河川を天然の外堀として利用しました。また、人の移動や物の運搬などにも水路を活用していたようです。

盛岡城最大の特徴は、東北地方では珍しい総石垣造の城であることです。盛岡城内の石垣の高さは最大で14mを誇り、その美しさなどが評価され、東北三名城のひとつに数えられています。

## どこまでが盛岡城か

石垣が残る内曲輪(盛岡城跡公園)のみが盛岡城ではなく、内曲輪、外曲輪、遠曲輪の3つ全てを合わせた範囲を指します。内曲輪を中心に、外曲輪、遠曲輪を扇状に配置しています。

盛岡城は、本丸、二ノ丸、三ノ丸がほぼ一直線に並ぶ典型的な造り(連郭式)となっています。本丸は藩主の私邸および藩主、家老、上級家臣の執務空間、二ノ丸は家臣たちの執務空間及び藩の公式行事を行う大書院などがありました。

### 【内曲輪】

城の主要部分。本丸、二ノ丸、三ノ丸、腰曲輪(淡路丸)などで構成。

現在の盛岡城跡公園～櫻山神社参道付近。

### 【外曲輪】

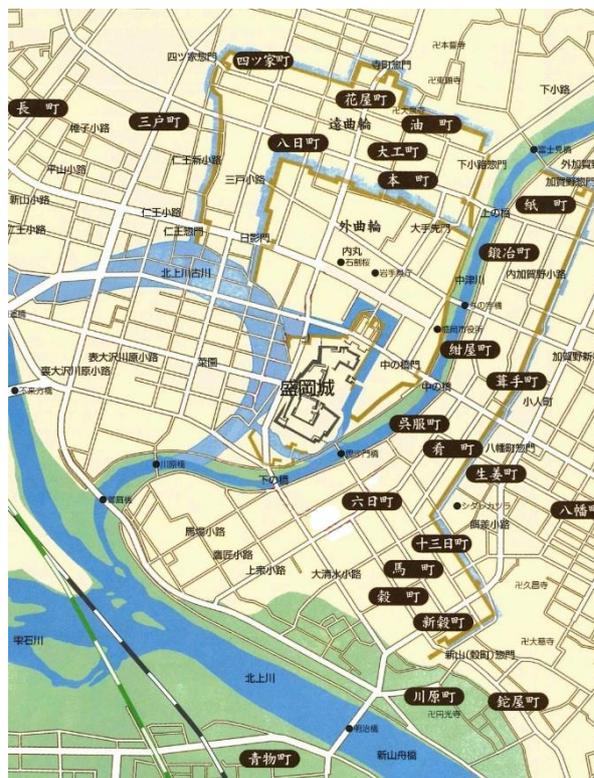
南部氏一族や重臣の屋敷が集まる。

現在の内丸付近。官公庁街や内丸メディカルセンター、岩手銀行本店、もりおか歴史文化館、芝生広場を含む地域。

### 【遠曲輪】

武家屋敷や町人街。

現在の本町通、中ノ橋通、神明町、清水町、南大通付近。



## 盛岡城の出入り口

綱門つなもんは盛岡城の大手門おおてもん（正門）で、現在の櫻山神社参道の県庁側にあります。現在主要な入り口のひとつとなっている菜園側の坂道ふきあげもん（吹上門からめてもん）は、当時は搦手門（裏門）でした。

三ノ丸北西部南面にあるかわらもん瓦門こぐちは、盛岡城内の虎口では唯一、左右に石垣が迫る空間となっています。



瓦門があったと推定される場所



## 盛岡城概要

慶長 2 年（1597）	南部信直と利直父子によって、本格的な築城が開始。寛永 10 年（1633）に藩主 <small>しげなお</small> の重直が入城して以来、南部氏の居城となる。
明治 7 年（1874）	明治維新後、盛岡城は陸軍省の所管となる。城内建物の保存も考えられたが、荒廃が進み維持が難しいことから、建物のほとんどが取り壊される。
明治 36 年～明治 39 年 （1903～1906）	公園整備の計画が進められる。盛岡市民だけではなく、たくさんの県民の役に立てるよう、「岩手公園」の名称で開園。
昭和 12 年（1937）	江戸の当時を思い起こすような、雄大な石垣が良好に残されていることから、国指定史跡に指定される。
昭和 59 年以降（1984～）	石垣の緩みや膨らみが目立つようになり、崩壊が心配される箇所も出てくる。
平成 24 年（2012）	歴史遺産を保存し、市民の憩いの場の整備・活用を推進するため、「史跡盛岡城跡整備基本計画」を策定。以降、崩壊の恐れがある石垣の解体・修復を行う。
平成 25 年以降（2013～）	「史跡盛岡城跡整備基本計画」に伴う発掘調査を開始。公園の安全性や利便性のためだけの石垣修復ではなく、大切な史跡である盛岡城跡を守り伝えていくために、石垣内部の構造や建物跡の確認、当時の作業内容の調査などの発掘調査を行う。

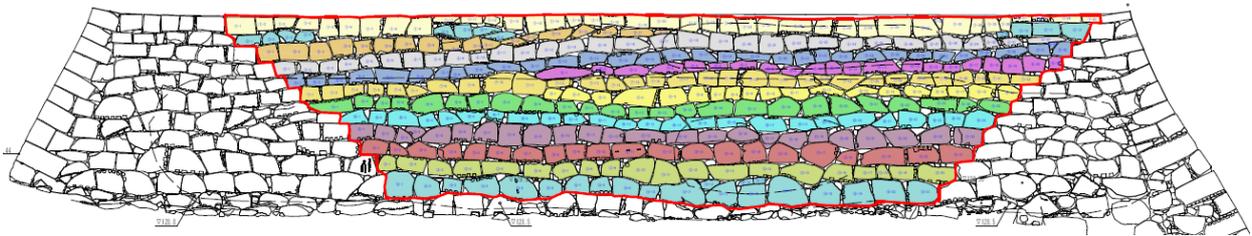
## 三ノ丸北西部石垣修復工事

城の中で最もメインと言えるのが本丸、本丸を守るのが二ノ丸、さらに二ノ丸を守るのが三ノ丸の主な役割です。

三ノ丸北西部の石垣は、<sup>げんな</sup>元和3年（1617）から元和5年（1619）に構築された<sup>らんづみ</sup>乱積の石垣でしたが、たび重なる地震により石垣が崩壊。現在の三ノ丸北西部石垣は、<sup>ほうえい</sup>宝永2年（1705）に<sup>ぬのづみ</sup>布積で積み直されました。

盛岡城では平成11年度（1999）から、石垣の変化量を調べる<sup>いしがきへんいちようさ</sup>石垣変位調査を行っており、それにより、三ノ丸北西部の石垣は、本来あるべき<sup>かたむ</sup>傾きよりも最大で70cmも<sup>ふく</sup>膨らみ出していることが分かっています。緊急で解体修復が必要な石垣であるため、盛岡市では昨年度から、該当箇所<sup>つきいし</sup>の石垣解体修復工事を行っています。

工事は、石垣14段・築石343個を対象とし、令和3・4年度に解体、令和5・6年度に積み直しを行います。今年度は2年目で、石垣6段・築石136個を解体します。



↑ 赤色で囲まれているところが解体範囲。  
色づけされているところが解体対象の石。

## 石垣解体の手順



① 築石のすき間にバールを差し込み、部分的に持ち上げます。



② 下の築石との間にキャンバー（くさび）を差し込みます。



③ 築石の重心に、②でできたすき間からワイヤーを通します。



④ クレーンで吊り上げ、ダンプカーや仮置き場に降ろします。

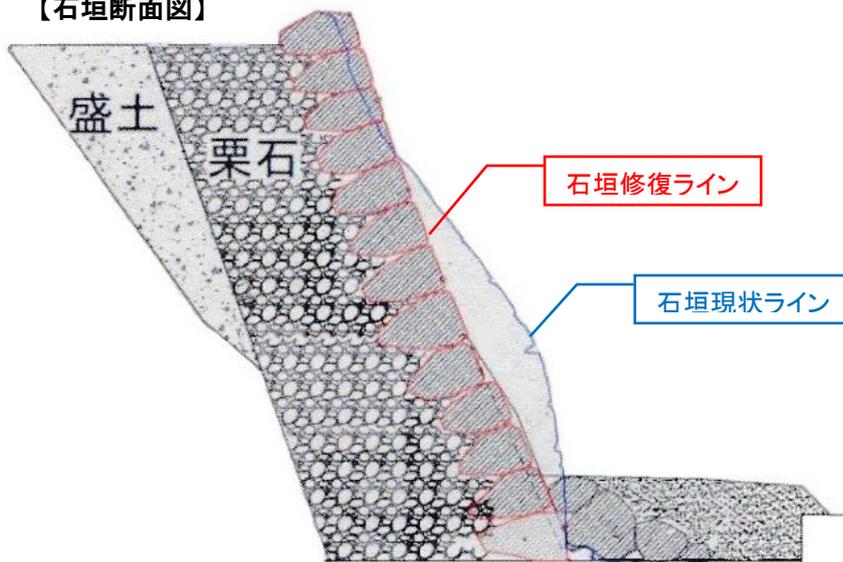
## 石垣の維持と修復

石垣修復にあたって、盛岡城では、解体の対象となる石ひとつひとつに番号をつけ、一石ごとに重量を計測して、所定の場所に仮置きしています。

解体して仮置きした石は、一石ごとに6面すべてを撮影、石材調査票を使用して、江戸時代の作業者たちが加工した痕跡こんせきの記録をとっています。

撮影したデータや痕跡の記録をもとに図化し、来年度以降の積み上げなどに活用する予定です。盛岡城三ノ丸北西部の石垣は、石垣が積まれた当時の姿を後世に残していくため、新しく築き直すのではなく、当時を再現するように修復します。

【石垣断面図】



石材仮置き場



加工痕の確認

史跡盛岡城跡 石材調査票		石材番号	N-5-12		
石垣番号		地区	三ノ丸	石材位置	北面 西 段目
①計測値(計測最大値)	②石材名称	花崗岩・その他( )			
面幅長 59.2cm	③配石状況	縦・横・斜・逆			
面幅長 75.7cm	④加工状況	野面・粗石・(加工)(粗・精)			
控え長 100.0cm	⑤積み方	野面積み・乱積み・(布積み) その他( )			
重量 850kg	⑥配置位置	隅角部・(築石部)・天端部・根石部 間詰め石・介石・追介石・戻介石			
⑦奥穴形状 断面形	1. 正面 下側 幅 1.5 × 深 2 寸 分	5 個	間隔 寸 分	(使用)・未使用	
	2. 左面 下側 幅 1.5 × 深 3 寸 分	2 個	間隔 寸 分	(使用)・未使用	
	3. 右面 下側 幅 1.5 × 深 3 寸 分	2 個	間隔 寸 分	(使用)・未使用	
	4. 前面 下側 幅 1.5 × 深 3 寸 分	2 個	間隔 寸 分	(使用)・未使用	
	5. 側面 側 幅 × 深 寸 分	個	間隔 寸 分	使用・未使用	
⑧各種痕跡	種類： 線刻面・刻印・刻字・傷害・朱書き 位置： 正面・背面・上面・下面・右面・左面				
⑨所見(略図：各種痕跡・加工範囲・加工具等記載)					
⑩石材利用判別	可・不可				
区分	破壊・再利用(再加工)・転用・その他( )				
理由					
備考					

【記入年月日】

【記入者】

石材調査票

## 石垣の積み方

石垣の積み方にはおもに「乱積」と「布積」の2種類があります。このほか、石垣を積むにあたって重要な隅角部（コーナー）には、「算木積」という技法が用いられています。

盛岡城の石垣は、12種類もの方法で積まれています（裏表紙参照）。

**乱積**：大きさが統一されていない石を積み上げる方法。石の大きさがバラバラなので横方向の列がそろっていない。

盛岡城の中では、自然の石を加工せずに積む方法（野面積）と、石と石が重なる面を増やすため、接合部を打ち欠いて積む方法（打込接）が確認されている。

**布積**：同じ大きさの石を水平にそろえて積む方法。横方向の列がほぼそろっているという特徴を持つ。

**算木積**：長方形に整形された石の長辺と短辺を互い違いに積む方法。



乱積(三ノ丸西側)

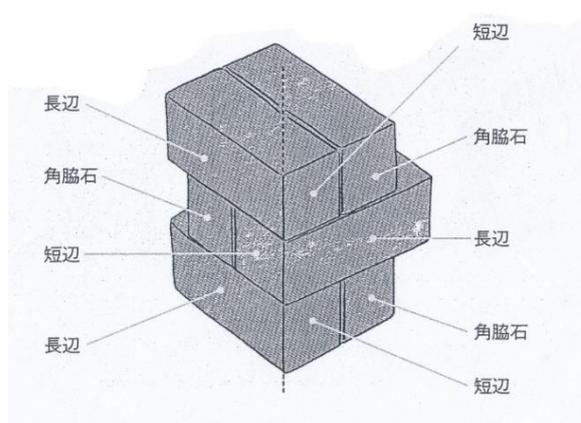


布積(二ノ丸西側)



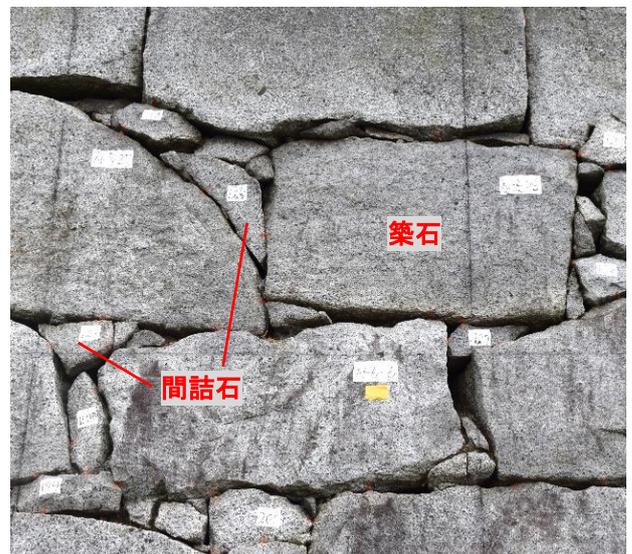
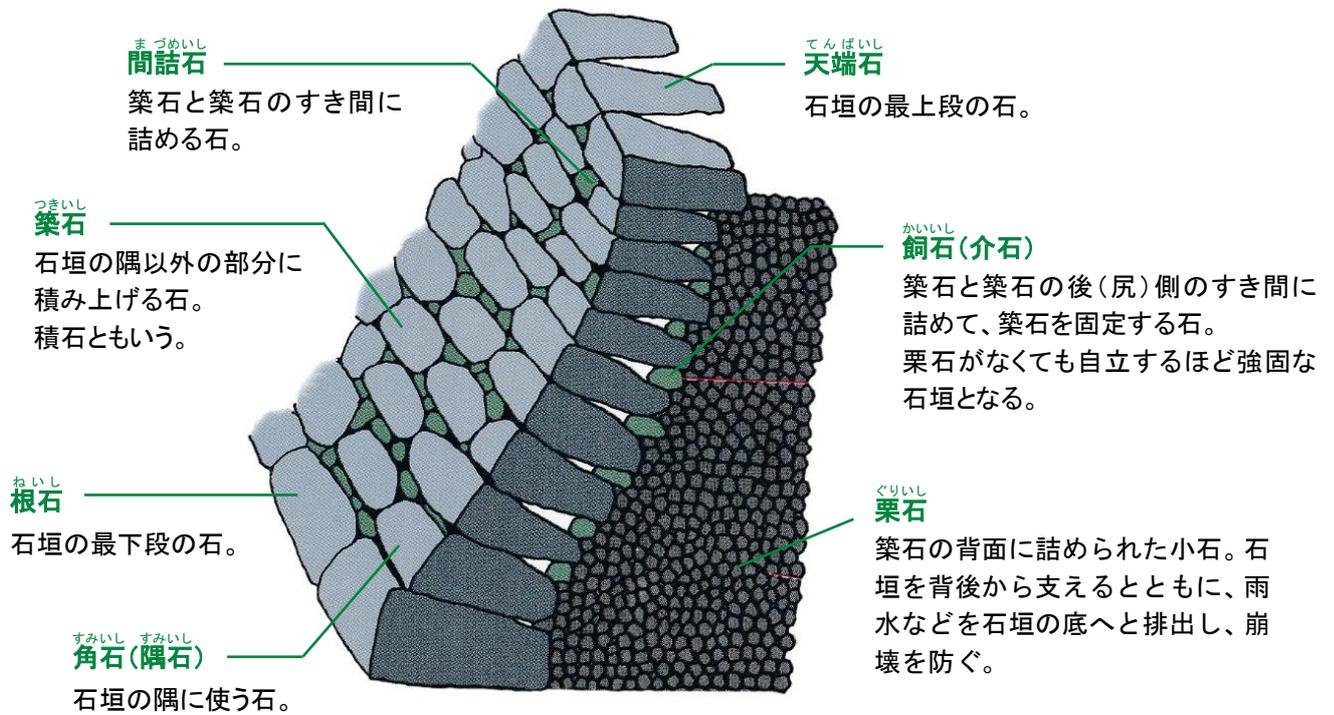
算木積(三ノ丸北東隅)

### 【算木積の構造】



## 石垣の内部構造

石垣内部は、築石、栗石、背面盛土の三層からなる柔構造はいめんもりどです。地震の揺れを吸収する役割と、背面盛土の雨水を外へ逃がす役割を担っているため、簡単には崩れにくい構造になっています。



## 石垣の産出地

石垣づくりは、まず素材となる石材の調達から始まります。石材を切り出した場所を「石切丁場」といい、この場所である程度加工してから、城内へと運ばれました。

盛岡城の石切丁場は城内にあったほか、東中野 ひがしなかの 金勢・日蔭山 ひかげやま、外曲輪（内丸）などがありました。城内に石切丁場があることは全国的に珍しく、石の調達には苦勞しなかったようです。また、紫波町長岡 しわちやうながおか から採取した記録もあります。

石材の運搬には、修羅 しゅら と呼ばれる木のソリや、川を使って船などを用いました。



城内(毘沙門橋付近)



東中野(分割した石の残骸)

## やあな 矢穴

採取した巨大な岩石を特定の大きさに切り割るときは、鉄製の矢（くさび）を差し込み、上から金づちでたたいて割りました。その矢を打ち込んだ痕 あと を矢穴といえます。

矢穴は時期によって大きさが異なります。

- ・盛岡城 1 期（16 世紀末・慶長 2 年（1597）以降）……9～13 cm
- ・盛岡城 2 期（17 世紀前・元和 3 年（1617）以降）……14～21 cm（最大）
- ・盛岡城 3 期以降（17 世紀後・寛文 8 年（1668）以降）……4～6 cm（最小）



盛岡城 2 期の矢穴



盛岡城 3 期以降の矢穴

### 【岩に矢を打ちこんで割る】



城内に運びこまれた石は、最後の調整・加工が施され、積み上げられていきます。基礎となる根石<sup>ねいし</sup>を置き、その上に石を組み合わせて順番に積み上げていけば、石垣の完成です。その際、築石の背面には飼石<sup>つかいし</sup>や栗石<sup>かいいし</sup>が詰められます。

## 曲輪（くるわ）

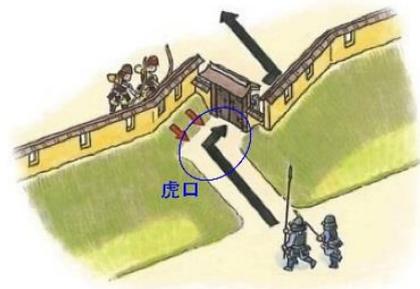
堀、土塁、石垣などで区画された空間（エリア）。

## 腰曲輪（こしくわ）

本丸などの主要な曲輪の周りにより低く設けられた、細長い曲輪のこと。山城や平山城に多く見られる。

## 虎口（こぐち）

城の出入り口のこと。小さい方が守りやすいということから、「小口」と書くのが本来の意味。敵の侵入に備え、通路を曲げる強固な虎口が誕生した。



## 平山城（ひらやまじろ）

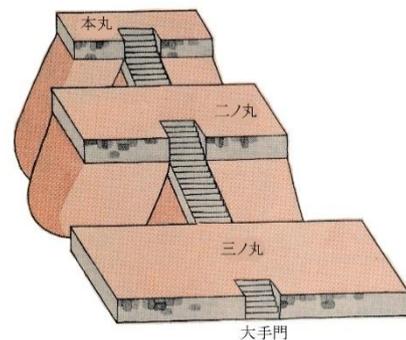
小高い山（丘）と周辺の平地を含めて築かれた城。山の上に築くことで得られる防御性と、平地に築くことで得られる利便性の両方を兼ね備える。

## 門（もん）

城や曲輪の出入り口（虎口）に置かれた城門。城の表門を「大手門（追手門、おおてもん）」、裏門を「搦手門（からめてもん）」という。

## 連郭式（れんかくしき）

本丸、二ノ丸、三ノ丸を一直線に並べた城郭の設計方法。



## 参考文献

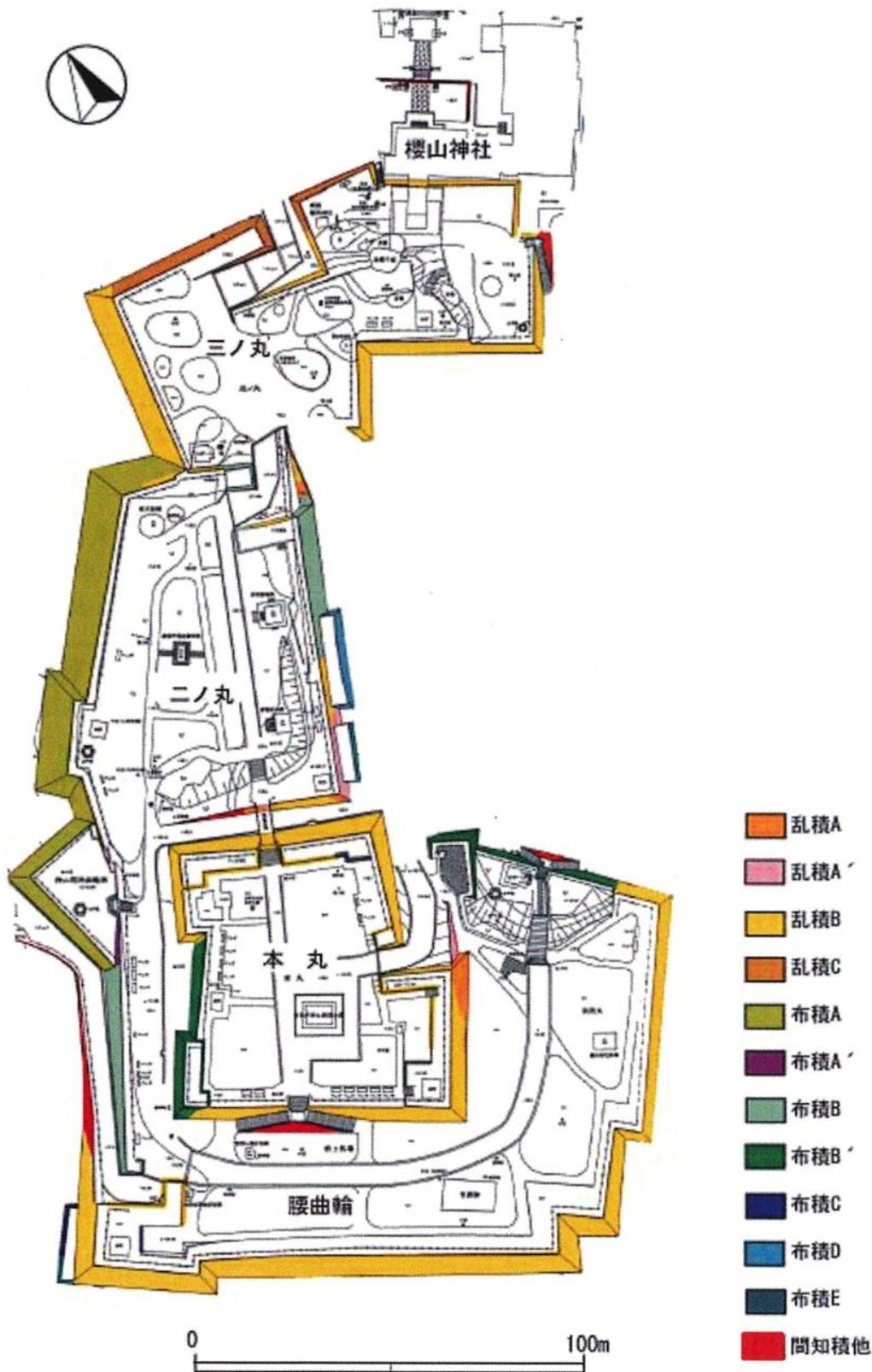
『名城の石垣図鑑』小和田哲男監修／株式会社二見書房発行

『探訪ブック 盛岡城』萩原さちこ監修／川口印刷工業株式会社発行

『城の楽しみ方完全ガイド』小和田哲男監修／株式会社池田書店発行

『城のつくり方図典』三浦正幸著／株式会社小学館発行

『城なんでも入門』内藤昌著／株式会社小学館発行



盛岡市 **遺跡の学び館**

〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋 13-1

Tel. 019-635-6600 Fax. 019-635-6605

HP: <https://www.city.morioka.iwate.jp/kankou/>

[kankou/1037106/rekishi/1009437/1009438.html](https://www.city.morioka.iwate.jp/kankou/1037106/rekishi/1009437/1009438.html)

E-Mail: [iseki@city.morioka.iwate.jp](mailto:iseki@city.morioka.iwate.jp)